

「もったいない」普及啓発事業について

1 事業目的

低炭素社会や自然共生社会にも資する「ごみゼロ社会」の実現をめざし、多様な主体の連携・協働のもと、発生・排出抑制、再使用、再生利用の取組をさらに推進し、資源循環を貴調とした地域社会を構築するとともに、「もったいない」という気持ちやものを大切にする考え方を中心とした普及啓発に取り組み、県民運動の気運を醸成します。

2 H23 年度事業内容

意識から行動へ移すきっかけづくりとして、食育の観点から「もったいない」という意識を中心に据えた、次世代（小中学生）を対象とした家庭や学校での「身近な生活場面」における食品の「食べきり」の啓発に取り組み、生ごみの減量につなげます。

もったいない普及啓発ツール作成委員会の開催

関係部局や実際に現場に携わる人からなる委員会を開催し、地域・学校等で環境学習・環境教育・啓発活動を行うための、ごみ減量に資する冊子を作成します。

研修用パンフレット作成

地域・学校向けの啓発用パンフレットを作成します。

内容（案）

（状況）・三重県のごみの現状・日本の食糧事情（世界の食糧事情）

- ・生ごみの状況（生ごみに占める食品ロスの状況）
- ・日本人は食糧自給率が低いにも関わらず、ひとり一日あたり給食一食分を捨てている。

（取組）子どもたちへ

- ・食べものへの感謝の心を大切に育む（地産地消の推進）
- ・残さず食べる食の習慣を身につける（自らの食の適量を知る）

家庭へ（保護者のみなさんへ）

- ・食品を無駄にしない在庫管理や調理方法、献立の工夫
- ・賞味期限の正しい理解・地産地消の推進・堆肥化への取組

もったいないチェックリスト（チラシ）の作成

「もったいない」の視点から、ものを大切にする心に気づく、県民向け日常生活上のチェックリストを作成します。

内容（案）

- 買い物には「マイバッグ」を持っていき、レジふくろをことわっている。
- せんざいやシャンプーなどの「つめかえ用せい品」を使っている。
- 買った食品は賞味期限内にすべて食べるようにしている。